シンポジウム | 特別講演

学術用語シンポジウム

高齢者の定義 75歳は妥当か？ -老年歯科医学からの検討-

座長:眞木 吉信(東京歯科大学衛生学講座)

Fri. Jun 22, 2018 3:40 PM - 5:00 PM 第2会場 (1F 小ホール)

【略歴】

1978年　東京歯科大学卒業

1987年　スウェーデン，ルンド大学歯学部口腔微生物学講座留学（スウェーデン政府給費留学生，1年5ヵ月）

1990年　東京歯科大学口腔衛生学講座助教授

2002年　東京歯科大学衛生学講座教授

　（財）ライオン歯科衛生研究所附属東京診療所院長

2010年　東京歯科大学社会歯科学講座教授

2016年　東京歯科大学衛生学講座教授

【抄録】

日本老年学会は2017年1月5日に，現在は65歳以上と定義されている「高齢者」を75歳以上に見直すよう求める提言を発表した。医療の進展や生活環境の改善により、10年前に比べて身体のはたらきや知的能力が5～10歳は若返っていると判断したためで，確かに歯科医学の観点からも，高齢者の歯数が増加するなど，歯科医療の進歩の形跡が認められる。このシンポジウムでは，高齢者に関する定義検討ワーキンググループのメンバーでありかつ歯科医師でもある那須郁夫日本大学客員教授より，歯科独自の観点から考えた「高齢者の適正年齢」を考察していただくとともに，他の職種からみたときに，本当にこの定義は妥当なのかを，同様にメンバーであった社会科学分野の古谷野　亘聖学院大学教授から，さらには，大学に赴任される前は厚生労働省にいらした小坂　健東北大学教授をシンポジストにお迎えして，それぞれの立場から考える「高齢者の定義」の議論を深めてみたい。

[S3-3]改善途上にある歯数の増加と高齢者の定義

〇那須 郁夫[1] (1. 北原学院歯科衛生専門学校, 2.日本大学客員教授)

【略歴】

1977年　日本大学松戸歯学部卒業，同大学助手

1985年　歯学博士（日本大学）

2005～2011年　日本大学人口研究所兼任所員

2006年　ドイツマックスプランク人口研究所客員研究員

2008～2017年　日本大学松戸歯学部教授(地域保健学・公衆予防歯科学)

2008～2010年　統計数理研究所客員教授

2017年　北原学院歯科衛生専門学校学校長（現在に至る）

2018年　日本大学客員教授（現在に至る）

日本老年歯科医学会専門医，指導医・常任理事

日本公衆衛生学会認定専門家

日本老年学会による高齢者の定義変更の提言以後，「高齢者」の受け止め方は変わった。その都度の定義なしに「高齢者」と表現することは憚られ，本年2月の高齢社会対策大綱では「高齢期に特有の課題を抱える者」と括られた。

　私は日本老年学会のシンポジウムにおいて，歯の本数を元に討論に加わった。そこで，昭和50年までの「65歳」の歯数は，現在では「80歳」に相当すること。この改善傾向は継続中であること。咀嚼に必要な歯数，「20本」の年齢は，昭和32年では男性が女性より7歳優位であったが，その後の女性の改善により，現在では男女差はなくなったことなどを指摘した。提言は「75歳」とされた。

　歯数が口腔機能の維持（特に咀嚼）の基本であることは，8020運動により国民に広まった。十分な口腔機能

©Japanese Society of Gerodontology

は，健康寿命の延伸につながる。さすれば，歯数が持つ5歳のアドバンテージは，高齢期の諸課題のうち，健康の維持増進と社会参画の拡大に資することとなろう。

©Japanese Society of Gerodontology